

平成20年12月2日発

第4回特別支援教育公開講座

猪名川町特別支援教育フォーラムを開催



11月29日（土曜日）、文化体育館小ホールで、第4回特別支援教育公開講座「猪名川町特別支援教育フォーラム」（主催：教育委員会）が開催され、町内外から、保護者などの地域住民や学校・園の教職員など約160人が参加しました。

この公開講座は、①発達障がいや特別支援教育への理解を深めること、②学校・園や地域・家庭で子どもたち一人一人に応じた支援ができるようになること、この2つをねらいとして、昨年度から開かれているものです。

今回のフォーラムでは、第1部で「猪名川町の特別支援教育～就学前から中学校までの一貫した支援を目指して～」と題したシンポジウム、第2部で「特別な支援の必要な子どもたち～家族としての支援、家族への支援～」についての講演が行われました。

第1部のシンポジウムでは、兵庫教育大学大学院の宇野宏幸教授がコーディネーターを務め、4人のパネリストがそれぞれの実践について発表を行いました。つつじが丘幼稚園の横路友紀教諭から、幼稚園内での支援体制や小学校との連携についての報告、つつじが丘小学校の川西真理教諭からは、校内支援体制や幼稚園との連

携に加えて、本年度から始まった通級による指導についての報告がされました。続いて、猪名川中学校の大出光沙子教諭が、多くの関係者との連携をどのように図っているかを報告しました。この3つの報告から、一貫した支援を行うための共通理解の重要性が確認されました。

また、川西市立川西養護学校の橋本正巳教諭からは、平成18年度から始まった町教育委員会、兵庫教育大学および川西市立川西養護学校との連携によるこれまでの取り組みと、町内の幼稚園、小・中学校への巡回相談について話された後、最後に猪名川町の特別支援教育の成果と今後の展望についてまとめられました。



第2部の講演では、財団法人ひょうご子どもと家庭福祉財団 子ども発達支援センターの関口美佐子さんが、家族に視点をおいたお話をされました。子どもの「自尊心」と「自立心」をしっかりと育てるために、保護者がどのようにすることが「安心感」「安全感」を与えることになるのか、園や学校の先生と連携をとり、他の保護者や子どもの理解を得るためにどうすればよいのかを、具体的な例を挙げながらお話いただきました。また、周囲の人がどのよう

にアドバイスしていくかについてもお話いただき、支援のネットワークの大切さを実感することができました。

参加者からは、シンポジウムについて「幼稚園、小・中学校の取り組みを聞くことができ、連携や共通理解の大切さを感じた。」「猪名川町の特別支援教育の一貫性がわかり、これから進学していく上での不安が少しやわらいた。」などの声が、講演について「自分は本当の意味で子どものことを理解していたのだろうか、と考えさせられた。」「発達を急がせることは、結局は本人のためにならないのだと思った。」「全ての子どもたちへの対応に共通する内容だった。」「子どもの自立に向けて頑張りたい。」などの声が寄せられました。

[猪名川町の今](#)

[猪名川町TOP](#)

[総務課TOP](#)